銅版

# 小學讀本

一

639

明治八年十月　假名附

# 改正 小學讀本 卷一

橋爪貫一藏版

特59
639



第一

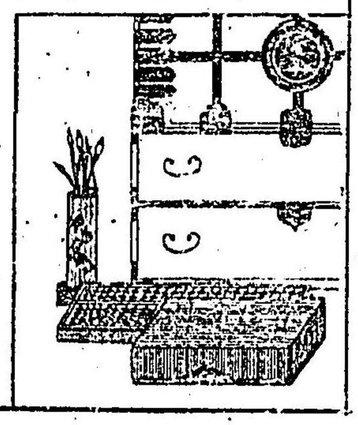
凡地球上の人種ハ五つ分ちより亞細亞人種歐羅巴人種馬來人種亞米利加人種亞弗利加人種

ハ亞細亞人種の中あり

人ハ賢きものと愚なるものとあるハ多く學ぶと學ばざるとの由りてなり賢きものハ世の用ゐる所にして愚なるものハ人ハ捨てらるゝこと常の道なきハ幼稚のときより能く學びて賢きものとなり必無用の人となることなり

明治九年 圖書寮編纂 那珂通高 校正

幼稚のときハ先日用什器の名を記して其用る方を知るべし○筆ハ字を寫し又畫を寫すに具はり○算盤ハ物を數ふる用に供し○文庫ハ書籍を納るし箱あり○簞笥ハ衣裳あどを入るし器なり



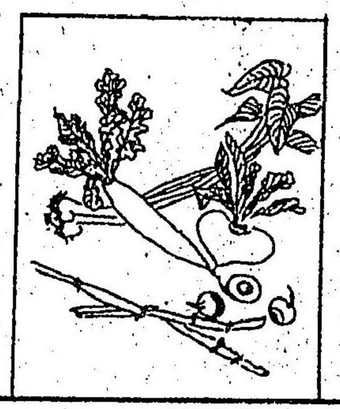
又平生食すべきもの〳〵名を記しこれを調理して食物となし法を知るべし○食物とあるべきものに種々なり

第一ハ穀物なり○穀物とハ稻米豆粟黍の類をいふ○此等ハ皆田畠に作りて其實を取り或ハ炊き或ハ炙りて食物とするなり

第二ハ肉類なり○肉類とハ魚鳥獸肉の類をいふ○此等ハ或ハ炙り或ハ煮て食物とするなり

第三ハ菓なり○菓ハ葡萄梨梅桃柿橙蜜柑の類をいふ○此等ハ多く生にて食し又鹽に漬けて食物とするもあり

第四ハ菜蔬の類なり○此等ハ畠に植て作るものと野に自生するものとなり○多くハ煮て食し又鹽漬とするもなり○凡て菜ハ葉と根とを食物とし又實を食物とするもなり○此の如く平生用ゐる食物什器をハ能く心を留めて忘るゝことなかるべし



人の業にハ種々ありて其學ぶべきところ各異なり然れども先書を讀み字を寫し物を數ふることを學ぶを第一の務とし是れを普通の學といふ○この學を為すに何ぞの業をも習ふに能むれ故に人ハ六七歳に至ればハ皆小學校に入りて普通の學に從ふべし○小

學校ハ士農工商とも必學ぶべきの業を授くる所なり
學校ニ到りてハ何事も一心ニ師の教ニ順ひ勉強して學ぶべし
何事を學ぶにも勉強を第一とす勉強せざれバ學問ニ上達すること能はず
一事ニても記し得たる所ハ能く心を用ゐて忘るべからず
初より多く記せんとすれバ却て忘るゝものあり故ニ怠らず日毎ニ一事を記し得て忘れざるときハ其記し得たる所の事自歳と共ニ積もりて多きニ至るべし
他人の一たび讀む所ハ百たびもこれを讀み他人の十たび習ふ所ハ千たびもこれを習ふべし○斯の如く勉強して怠りなければ必多く事を記し得らるべきなり○愚なるものも多く事を記し得るときハ無用の人たることを免るべし
學校にてハ授業の暇ニ遊歩の時間あり○此時間ニハ遊歩場ニ出で身を動かし心を慰むべし○怠なる勉強したる後ニ遊歩するハ亦た小樂となるものなり

故ニ遊歩するとせんとおもふハ授業の時間ハ怠らず勉強をして遊歩場ニ出て男兒の戯るゝ技ハ種々あれども決して危き遊をハなすべからず○輪を廻ハし紙鳶を飛ばし球を投ぐる等を宜しとす○朋友相集りて遊ぶときハ自擅ニして他人の樂を妨ぐべからず

女子の遊ハ男兒と異りて走り旋るなどの戯をハなすべからず○朋友を伴なひて遊ぶ時ハ心を和らげて何事も親しくすべし

## 第二

我等ハ河の中ふて遊ばんとす岸の邊ハ水淺きゆゑよ水ふ入りて遊ふことを得べ〜○河の正中ハ深きゆゑよ遊ぶべらす若深き所よ沉むときハ復出ずること能ハざるべ〜○汝の衣裳ハ濕ひたきハ陸よ上りてこれを乾そべ〜○汝ハこの小舟よ乘らんとするか○小舟ハ覆へり易き故漫ふ乘るべからすも〜過つ時ハ水よ陷りて其命を失ふことあるべ〜

此兒ハ新〜き紙鳶を持てり○彼ゲ糸を持ちて走るを見よ○彼ハ紙鳶を高く飛ハせんと思ふなり○汝も紙鳶の颺るを欲そるゝ○紙鳶の颺

りさるときハ能く心を用ゐよ○糸の樹よ纏ふことあるべ〜彼ハ新〜き帽を持てり○其舊き帽ハ破きさるゆゑよ新〜く買得さるふり○新〜き帽をハ心を用ゐて或ハ毀り或ハ濡すべからす○凡て新〜き時より大切よ持てハ後までも破き難〜故ふ何物ゐても麁末よそべからず若心を用ゐそ〜ぜ毀ゐことあらばその罪を免るべからす

此猫を見よ恣よ卧床の上ふ坐せりこれよき猫よ在らば○汝ハ猫を追ひ退くることを得べ〜や○否手を出さば必猫よ噛まるべ〜○猫ハ他所ふ追遣るべきゝ又此所よ留め置べきゝ○猫ハ此室の中よ留め置と雖卧床の上よ上るとき

とをハ許もべからず○汝ハ此猫の鼠を捕るを見たりや○見たり夜間ハ鼠を捕ふること屢なり

汝ハ小舟ハ乘もる人を見たりや彼ハ何如ハ～て其舟を行るや○彼ハ櫂を以て小舟を漕けり

群兒相集り球を投げて遊ひ居もり○彼等の棒を持てるハ投げさる球を受留るを以て樂ともるなり若其球を受留ること能ハさる者をハ負とするなり○此球ハ柔ハ～て堅きものハあらさるゆゑ人ハ中りても傷くことハ～○此ハ善き遊なれとも熱き日ハ早くこれを止めよ酷～き熱きに觸ふ～ときハ身を害ふを以てなり

大陽の昇りたるときハ我等の起き出つへき時

の來きたりと思ふべ～○太陽の昇りたる後ハ猶寢所ハ卧もことをかを○我等ハ大陽をバ見ることを得ハ也も其出つるを見ることなし○汝ハ大陽の赤きを見たることなりや大陽の赤きときハ大低早もるものなり

これハ林檎の樹なり○汝ハ此樹の蕾を見こりや○此樹ハ紅き蕾満てり○此蕾をハ取るべからず○暫過ぐもバ其蕾皆開き美～き花となるのみならず後ハ實を結びて其味甘き果となれハなり

彼兒ハ牝雞を養へり○雞ハ穀物を食もること速なり○こを嚙むことハ～て食もるゆ故なり然もとも其穀物をバ腹ハ嚙ミ下たさも～て

唯喉の下なる袋に入れ置き夜間に再吐き出して始めてこれを腸中に噛み下ごくものなり

## 第三

彼女ハ鳥を捕へて籠に入れ置けり○此鳥未馴れたりや又時としてハ噪き暴るゝことも有りや○此鳥今ハ馴れたれども初めよく暴れたり○汝ハ鳥の聲を聞くことを好むか又好まざるか○吾ハ鳥の聲を聞くことを好むのみならず又其形を見ることを好む○此鳥ハ籠より出つることを願へるか○若籠より出つるとも再歸り來るへきか又其まゝに飛び去るか○凡て鳥ハ自由に山林に遊ふことを好む故に籠より出つることを願ひ一度出つれハ再歸り來ることなし

我れ惡しき小兎を好まざるゆゑこれを遠ざけんとす○惡しき小兎にても吾ハこれを打ち傷くることあり然れども共に遊ふことをハ好まざるなり

彼子ハ彼小女の爲に親切なりや○然り彼子の親切なることハ小女の蹶き倒れさる爲に手を執り導くを見ても知るへし○彼二人ハ道に迷ふへきか○否彼子ハ能く道を知れるゆゑ二人とも道に迷ふことなし○彼等ハ林の中を過ることを恐るるか○否恐るることなし○小女の母ハ彼子の恐るることなきを知りてこれを

任せたるゆゑに親切に導きて家に在ると同じく安全ならしむるなり

○若又家に歸らんとするときは自在に歸り得らるべし

汝は杖を携へさる老人を見たるか○彼老人は路傍の石の上に憩ひ其手を杖の上に置けり○彼の顏と其白髮とに由りて年老たるを知り又年老たるに由りて體の屈みたるを知きり○

何に由りて彼は杖を携ふるや○老人は杖の爲に歩行を杖なくては歩行難し○彼は年老ともとも起つことと歩行することとは得へし然ともとも急に走ること能はす時々途上に休ミて息を續き杖に賴りて徐に歩行するなり

爰に五人あり○汝は此人の年老たるを知きりや○此人は白き髮あるは老人なるへし○此人



等は手に杖を持ちたる老人と同じく年老たり○然れとも其身は猶壯健なるゆへに杖に賴らずして自在に歩行することあるなり」

彼等の持ちたる笛の名をは何といふぞ○此は喇叭なり○彼等は樂隊の兵卒なり此笛を吹くことを鍛錬するなり○此笛は兵隊の行列を整ふる合圖に用ゐ又は祝日の音樂に用ゐるものなり○此笛は管長くして先きの開きたるものなり

汝は此人の服紗の中にあるものを書冊なりと思ふか○否これは卷物なり○然らは書冊の次第を數ふるとき何故に卷一卷二と云ふや○この唱は漸に轉れるなり古は只卷物にして書冊なりしゆゑに卷一卷

二と呼ひさりしを其後今の書冊出来りても猶昔の唱に沿うへるなり」
良き老人ハ我う好く隨ひて問ふ所を教へ又能く小兒を愛するう○然
り彼ハ小兒の善きものを愛すれとも惡しき小
兒をハ決して愛することなし○善き小兒なれ
ハ好くて何事をも教ふるなり
汝ハ此女子を見るう○何故に其手を上げて
をるや○彼女子ハ籠に鳥を入れ置きされとも
心を用ゐることなからさる故に鳥を養ひ得ず
彼籠を持と即其鳥逃け去りて直に林の中に飛
ひ入たるなり○此とき歌鳥をて手を舉くとも
再捕ふること能ハされハ何の用にも立つへ
らず○彼の鳥を逃かしたるを吾ハ却て甚喜へり鳥ハ自由なることを

好むものなれハなり
汝ハ鳥の性を知とりや○鳥ハ木に在ることを
好くて巣を造り兒を養育す○鷸鴫ハ小鳥にて
棘の間に巣を營み鶺鴒ハ水鳥にて水の邊に巣
を造るなり○かゝ鳥ハ頭に毛冠あり○そべて
諸鳥の林間又ハ水上に遊ふハ天然の性なれハ これを捕へて苦むるハ
善きことにあらず

第四

此女子ハ愛すべき人形を持てりとれ等ハ遊ぶ
に宜しきも俱あり必大切に弄ぶべし○人形を舞
たすときハ静に動かして敎るべからず
母ハ小兒に向ひて何れの人形を求めんとする

やと問ふゑ小兒ハ自好む所を指ー示せるゑり○此小兒ハ人形のみを弄びて倦めるときゑハ何事をゑすや○毬を弄ふことを好むゑるべー○此店ゑ列ねる品皆小兒の好むものゑれども此小兒ハ靜なる娘ゆゑゑ人形を愛ー て能く心を用ゐこれを損ひ毀ることなるー

梟ハ終日密樹の枝ゑをり夜ゑ入れバ始めて飛ひ翔るゑり○此鳥ハ眼力甚強きゆゑゑ晝間ハ却て物を見ること能ハず暗夜ゑ明ゑること人の能く日中ゑ物を見るが如ー

馬ゑ乘れる人あり○汝ハ馬ゑ乘ることを好むか○我ハ馬ゑ乘ることを好めり然ども彼の如く疾く走ることを好まず徐ゑ歩ますることを好めり○此馬ハ何故ゑ疾く走るや○馬ハ彼ゑ鞭うたるゆゑゑ其痛ゑ堪へきーて疾く走るゑり

妥ゑ小船と大船あり小船ゑハ二本の檣あり大船ゑハ三本の檣あり汝ハ檣の用を知きりや○檣ハ凡て帆を揚ぐる爲ゑ設けとるゑり○汝ハ海を渡るゑ小船ゑ乘ることを好むか○風吹きて浪の立つ時ゑ我ハ船ゑ乘りて海を渡ることを好まず其覆ちんことを畏るゝゆゑなり○これハ蒸氣船なりや○否蒸氣船ゑハ帆前船ゑ

妥ゑ暴風の日海上ゑ浮ひとる船ハ檣も折き帆も破きて甚危き狀なり○此船ハ帆前船なるべーゆゑ蒸氣船なきハ斯る難ゑ罹ること少ふからん○こき

ハ軍艦ゝ商船なり船の腹ハ炮門なきを見て知るべし

此小兒ハ幼年なるゆゑ水の深き所ゑ入ること能はず○此小兒ゑ何をなさんとするや○こゝにハ蓮の小き葉と大なる葉とを採らんとするゆゑ○もし岸より遠く離れて行くときハ水も漸深くなるゆゑ歸ること能ハざるべし

一人の男ハ帽を被りて左の手ゑ杖を持てり○此人ハ此家の主人ゑて今他所へ出でて行かんとする狀なり○帽を手ゑ持ちたる人ハ上著を著ずして肘を見ハせり○こゝにハこの家の僕ゑして事をなさゝ使なるかゆゑなり○僕ハ今主人の出て行きて後ゑも終日空しく暮すことを欲せずして其爲ゝへき事を問ふところなり

人ありて草を積み上げたり此草の乾きたるを枯草と云ふ○枯草ハ車ゑ載せて これを馬ゑ引かせ直ゑ小屋ゑ運び入るべし○もし雨ゑ遇ふ時待ち速ゑ小屋ゑ運び入るべし○雨ゑ遇ふ時ハ再濡るゝものなれバなり○此枯草ハ牛馬の食とするべし○馬ハ枯草と麥とを食べれども其最好むものゝ麥なり

人ゑ耳目口鼻なり○鼻ハ香を嗅ぎ耳ハ聲を聞き口ハ食を味ひ又思ふことを言ひ目ハ物を見るものなり○鼻と口とハ只一つゝして目と耳とハ二つゝありて耳と目とハ二つゝありて口ハ一つなれども見聞く如くゑ言語を多くなべかゝ○又人ゑハ二つの手と二つの足とあれども口ハ只一つゝの話をバ少くして業をバ多くなべし

## 第五

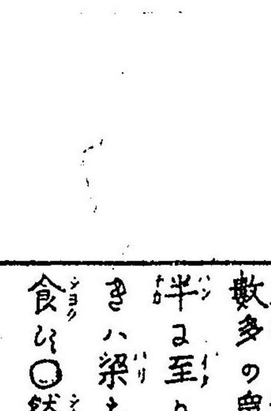
鶴ハ大なる鳥ふーて雛の間ハ其羽毛茶色ゐまとも生長して後ハ雪の如く白くなるゐり○この鳥ハ長き頸ゐて長き脛あり○此鳥の卵ハ大ゐして白きものゐり○此類の鳥を涉水鳥といへり浅水を涉りて漁獵を食とゐせども水上ゐゃ浮ぶことなく夜ハ樹上ゐ眠るゆゑなり

學校ゐ教師入り来ゐり數多の男兒と小女予とあり○此小兒等ハ皆書を讀み字を習へり○校中ゐゃ石盤と机と書籍とゐり○汝ゃ學校ゐ行くことを好むゃ○汝ハ書を讀み又語を綴ることを能くせゃ○吾ハ書を讀むことを好めども未能く讀むことゐを得ず今日ハ寒き日ゐり○雪ハ一様ゐ地上ゐ積もゐり○小兒ハ冰の上を滑べることを好む○此遊ハ甚危きものゆゑ能く心を用ゐるべゐらん○もーー顛び倒るゝことあらハ身を傷ふべーー○賢き小兒ハ加ゐる危き遊を好むことゐく只遊歩場ゐ於て遊ぶのみ

ハ手を伸べて卵を取らんとゐ○巣の中ゐハ數多の卵ゐり○こゝをハ鶏の卵ゐり○鶏ハ巣の傍ゐ在りて飛び去らゐこゝをハ卵を取らるゝことを憂ふるゆゑなり○鶏の卵ゐ小ゐるものと大ゐるものとゐるハ其種類の異ゐるゆゑゐり

瞿麥と桔梗との花ゐり○小兒ハ桔梗の花を採り娘ハ瞿麥の花を手ゐ持てり○瞿麥の花ハ多く紅色ゐ

り○桔梗の花ハ紺色ゑり罌粟ハ多種ゑども概夏ヲ花ヲ開くなり
數多の鼠あり鼠ハ日中ゑ出つることまゝ○夜
半ゑ至りて各出て〳〵遊べり○此出て〻遊ぶと
きハ梁を行き棚ゑ登り厨ゑ入りて食類を竊〳〵
食ふ○然ゑとも猫の聲を聞くときハ驚きて一
時ゑ静まり忽穴の中へ逃げ入るなり○故ゑ猫の居
る處ゑハ出てて遊ぶことなゝ
爰ゑ馬車ゑりて數多の小兒と女子とを載せたり○
汝も此小兒と女子とを知きりや○これを知れり○
これハ皆我學校ゑ来る人ゑり○彼の犬ハ馬と同ト
く走きり○被等ハ汝を見たりや○彼ハ吾を見るときゑ必其帽を脱く
故ゑ我も亦其時ゑハ帽を脱ぐきることなゝ





この箱の中ゑ響ありり○汝ハ此響を何なりと思ふや
○此箱の中ゑなるハ鼠あらぎハ猫なるべ〳〵汝ハ何
なりと思ふや○この響甚小なるゆゑゑ吾ハ小き鼠
なりと思ふり○凡て響ハ其物ゑ應〳〵て度ゑ過ぎき
るものなれば猫よもならぬ大なる鼠ゑもうらすと思へり

爰ゑ四人の小兒あり二人ハ立て坐〳〵て二人ハ立てり○
一人の老人ありて此小兒等ゑ神の話を說き聞うき
んとす○老人云ふ凡て人ハ神を敬〳〵て我身の幸を
願ふもとならハ善き道を行ふべ〳〵○善き心を持ち
て善き道を行ふんことを欲せば小兒の時より學問
を勤むべ〳〵○學問〳〵て壯年ゑ至り達も過なるときハ自神の助を得べ〳〵
爰ニ杖を携へたる老人あり足も不自由なて目も矇〳〵なれり然ども

此老人も初ハ小兒なれ今の汝等の如く疾く走りまゝ遊び戯れ〳〵なり○今ハ足も頸れるも肩も倚りて立てり○見ル此老人ハこれを一年ゝ譬ふもハ冬の時候の至るなり○汝等も冬の時候ゝ至らさる前ハ學問を勤めて世間の利益を考へ出さゝハ春の萬物を生長するが如くせゝハあるべからす

爰ゝ槻の大木あり○汝は此木の年を經たる數を知るや○此木の年を經たる數を知らんことを欲せハ横ハ切りて木理の輪を數へ見るべし○木理の輪ハ毎年ゝ一つの外ハ生せさるものなれハ輪の數ゝて其經たる年の數を知らるゝなり○木理の輪ハ大樹の心ゝより増そものなれとも亦ゝ外面より増そものもあり

汝等毎朝早く起きて神を拜〳〵先今朝まで無難ゝ過ぎたるも神の賜ゝかく夜明くる毎ゝ日光を給ふよりて父母の恙なき顔を見ることを得るも皆其恩なりと謝そべ〳〵○さて其後ゝ吾を導きて幸を與へ必過無らんことを祈るべし〳〵

## 第六

此人等ハ小舟ゝ乗り網を以て魚を捕り海濱ゝ歸るなり○網を海上ゝ引きて魚を捕ふるときハ鱗あるも鱗ふきも大なるも小なるも同〳〵ゝ其中ゝ入らさるものあ〳〵○汝ハ此處ゝ居る三人の男を見たりや○又彼等の捕へさる數多の魚を見そや○海中の魚ハ其種類多く〳〵て大なるものとゝなるもの

と良きものと良からぬものとあり○一人の男も小さ〜て良からぬさる魚をハ取りて海中へ投げ入れさり○一人ハ大なる魚を籠ふ入るゝ所なり○入れさる魚の此籠ふ満ちさるとき我が家ふ持ち歸るなり

此地を何如なる處と思ふぞ○花園なり○此處ふ數多の美〜き花あり○左の手ふ鍬を持ち右の手ふ帽を持ちさる小兒あり小兒の後ふ杖を持ちさる娘あり○汝ハ此園を此小兒と娘との爲ふ設けさる所なりと思ふか○又この小兒等も喜びて遊ぶと思ふか○一人の娘ハ瓜を入れさる籠を持てり○汝ハ花園ふ遊ぶとき漫ふ花を折り又果を取るべからず

髮ふ果を摘み入れたる籠あり○この果ハ葡萄と梨子ふ

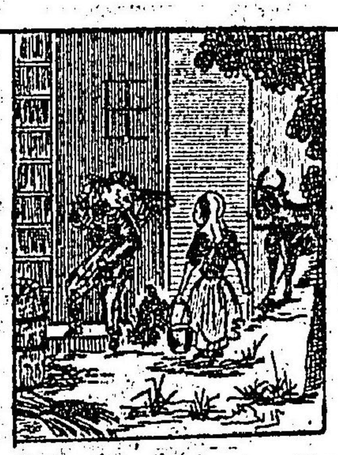


り○籠の外ふ掛りさるハ葡萄の蔓なり○其影ハ籠の左ふ在り然れハ大陽ハ何れの方ふありといふことを知れりや○大陽ハ籠の右ふ在るべし

此畫ハ日の出の景色なり○今日ハ晴れと天氣なり鳥ハ木より木ふ飛び遷る○草ハ青々として葉ふ露を帶こり○數多の農夫ハ野ふ出でて或ハ畠を耕し或ハ草を芟れり○農夫ハ晴れたる日ふハ必野ふ出でて働くものと知るべし○晴天ふ働くさきハ霖雨ふ遇ふとき耕すことを得ずして穀菜を得ることなし

今ハ日中ふありたり○大陽の照らす處ハ甚熱し然れとも樹の蔭ハ較涼しきふ依ふたる牛を立ちたる牛あり○又一匹の牛ハ熱さを消せんか爲ふ河

て行きて水を飲まんとす○河の上に橋あり○人ハ日中にありたるも
ハ皆晝飯を食する爲に家に歸きり



日暮になりたり○人ハ野より歸り來り牛を庭
にいたり○一人の女ハ庭に出でて牛の乳を搾り
桶に滿たしめてこれを牛酪に製せんとす○此
時男子ハ晝間刈りたる草を積み又干し置けり
穀を收めんが爲に極めて忙し○今日もし務を果
さゞるときハ明日の業に妨げありかもあり
神ハ常に我を守るもなに吾れ獨りて暗夜に歩行す
るをも恐るることなし○又眠りゐるときをも神の
守りあるもなに暗き所も恐るゝことなし○神ハ暗
き所も明に見るものもなに人に知らざる所と思ひ假にも惡をすること

をゆるせハ忽罰を蒙ふるあり○人の知らざることをも神ハ能く知るも
なに善きものにハ幸を與へ惡しきものにハ禍を與ふるあり

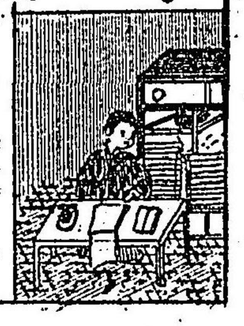
## 第七

汝ハ物を數へ得るか○父もし汝に十一の林檎
を與へて母もまた五の林檎を與へさるときハ
幾箇の林檎を得たりと思ふや○十六の林檎ふ
り○然り汝等ハ物を數ふることを學ふべし○大ふる數と小き數とを
知るべし○汝ハ石盤又ハ紙に數字を書得るゝもし數字を書き得ず
ハ務めてこれを書くことを學ぶべし○物の數を知らざるハ愚人なり、

盆の上に十一の梨ありこの中母ハ三持ち去りし然ち
ハ殘りたる梨子ハ幾箇とかりや○殘りたるハ八なり
汝等ハ文字を書き得るか○文字を書き得さるときハ

書狀を人に贈ること能わず○この句に汝等ハ文字を書くことを學ふべし

汝等ハ文字を讀み得るゝ○文字を讀むことを知らざれバ人より贈りさる書狀をも讀むこと能わず○又書籍を讀み得さるとさハ事を知ること能わず○事を知らさる人ハ縱才ありと雖用ゐハ適せさるなり○句に文字を讀むことを知らざる者を同〳〵愚人といふなり○さきハ汝等ハ務めて文字を讀むことを學ぶべし



馬ハ實用に適すへき畜類なり陸地に於て荷物を運ぶに馬無くてハ不便なり○馬ハ畜類の大なるものにて頭長く鬣あり○背の上に荷を負ひて遠さに輸るもあり人を載せて速に走るもあり又車を引くもあるなり

牛も馬と同じく實用に便なる畜類にして能く車を引き又ハ荷を負ひて遠さに輸るものなり○されども牛ハ人を乘せて走ること能わず○牛の肉ハ食物となりて能く滋養とする又牝牛よりハ乳汁を搾り取ることを得るなり

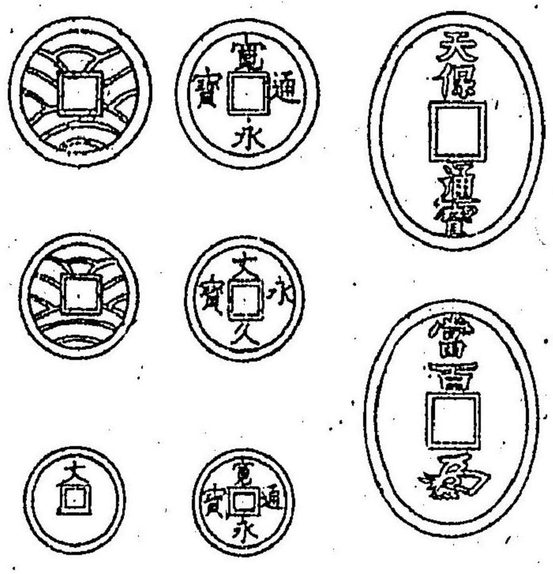
汝の着さる衣服ハ何といふ織物なりや○上衣ハ糸織にして羽織ハ黑羅紗なり○汝ハ絹と木綿と羅紗の中に何れを尤も好まるものと思ふや○羅紗ハ毛織なれバ第一に暖なり其次を木綿とす絹ハ又其次なり

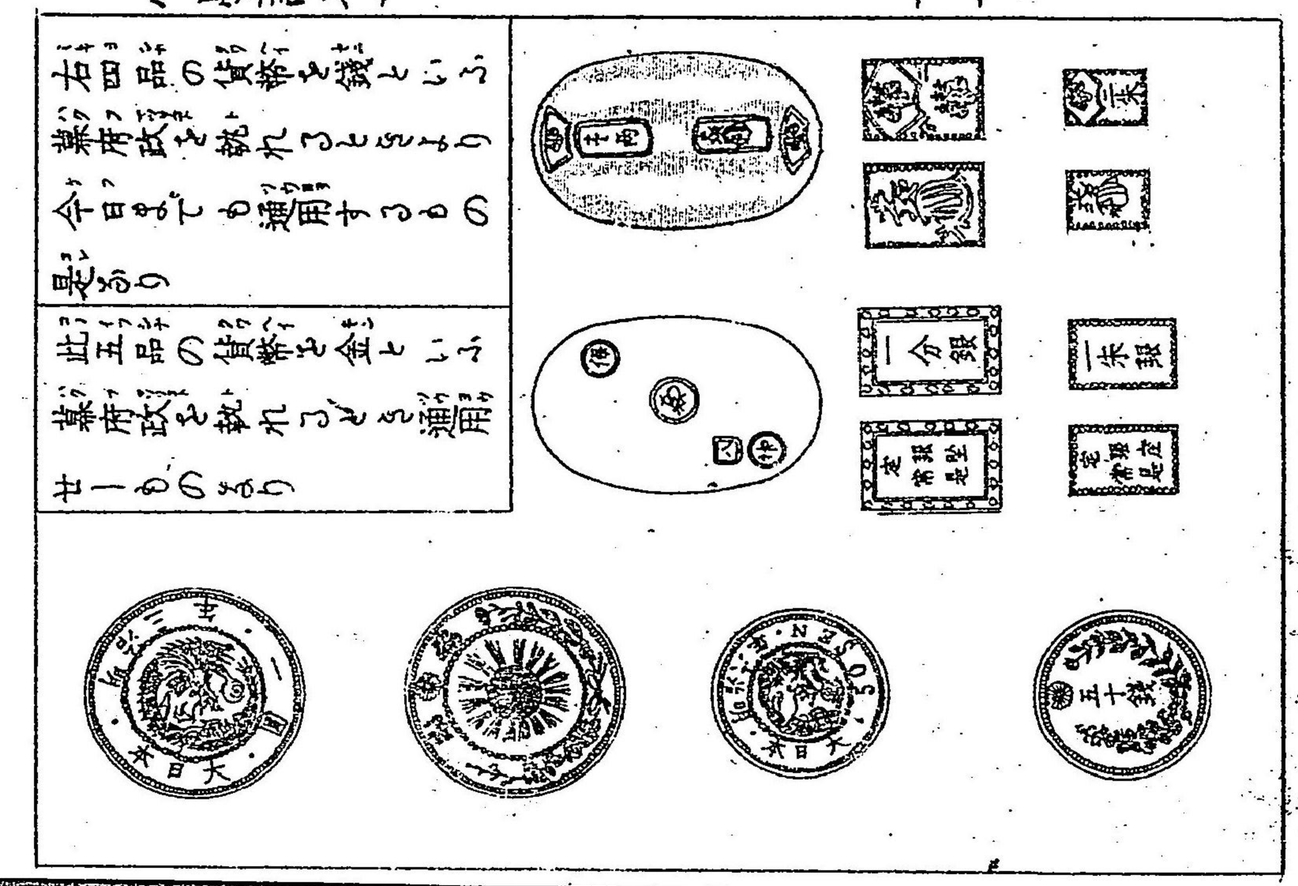
妾に白き單衣と紺色の單衣あり○汝ハ何れを暖なりと思ふや○白き色ハ太陽の熱を引くこと少きなり夏ハ涼しと雖冬ハ寒し○紺色ハ

太陽の熱通ひ易きも夏は冬ハ暖まりと雖夏ハ暑―
○人々夏ハ多く白衣を着冬ハ多く紺色の衣裳を着
るハこの理よりてなり
爰に二枚の圖あり皆人の働く狀を
畫けり○初の圖ハ田に下たりて秧を植る所なり○こ
の人ハ肘も脛も露えせりこれ働くに便なるが故なり
次の圖ハ稲を刈りて我家に持ち歸る所なり○又稲を
持きて米を取る所を見るべし○此人々の衣ハ汗に濡

ひて乾くときなし○農夫ハ此の如く働かされバ穀物
を得ることなし○汝等穀物を食する毎に農夫の苦勞
を想ひ粒々皆辛苦より出でたるを知りて其業を怠る
べからず

これハ蠶を養ひ絲を繰る所なり○數多の女皆朝早く
起き夜中までも眠らすして髪も結えす日々息ふ間な
く働けり○又二人の男あり桑を採る所なり○此男え
野に出で、耕す
人と同じく肘も
脛も露えに力を盡して働けり○
此の如く數多の男女の苦勞して
製するに非されバ糸も生ぜす絹
も得ることと能えす○汝等暖なる
衣を著たるときハ必蠶を養ひ
絲を取る人の苦勞を忘るべ
からす」爰に種々の貨幣あり

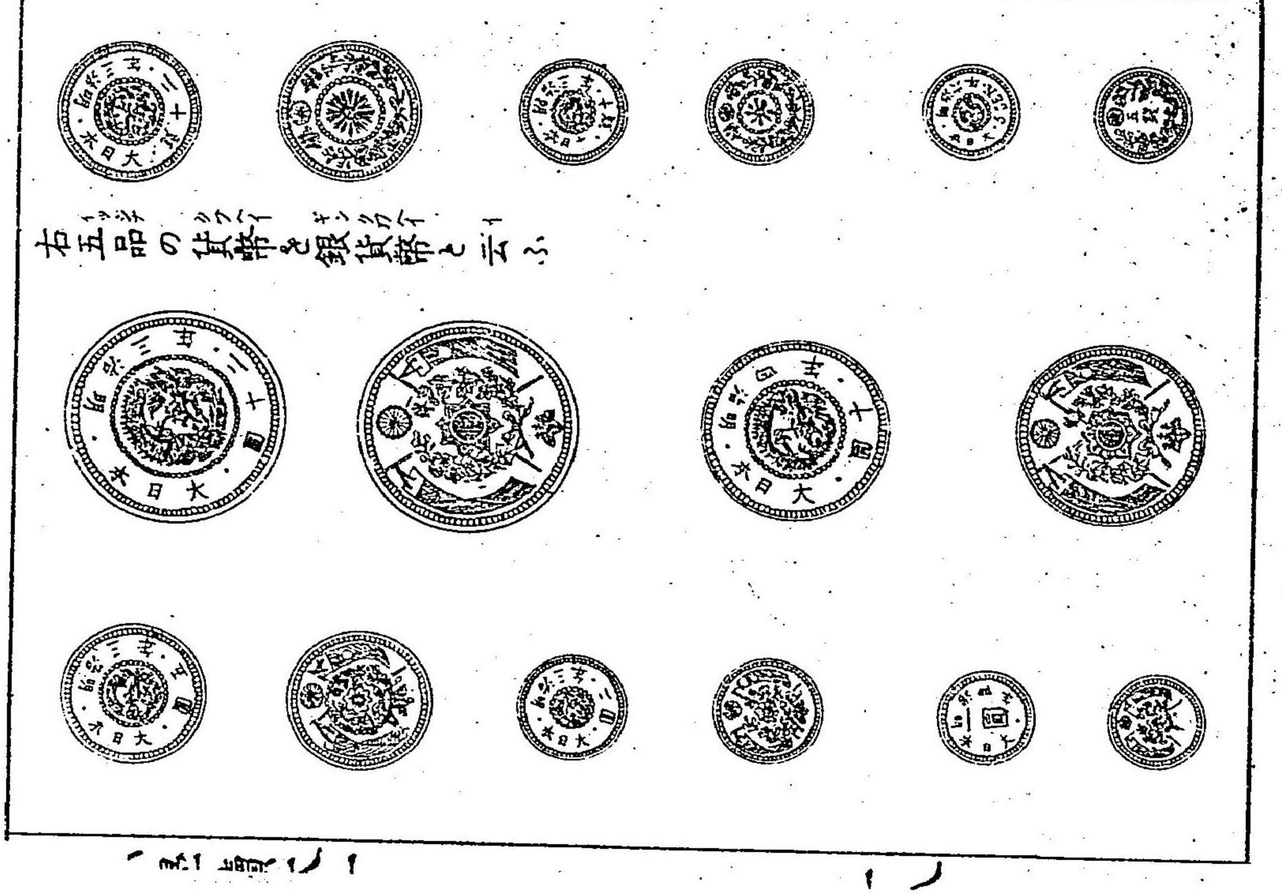





今日までも通用するもの
是なり

右四品の貨幣を錢と云ふ
業府政を執れるものなり

此五品の貨幣を金と云ふ
業府政を執れるを通用
せしものなり




右五品の貨幣を銀貨幣と云ふ

右五品の貨幣を金貨幣と云ふ

右三品を銅貨幣と云ふ

此三種の貨幣ハ朝廷の發行して當今の通用ふり

小銅錢一箇を一厘といひ十厘を一錢といひ百錢を一圓といふ故に十

二錢半を金二朱に當さり二十五錢を壹分に當たり五十錢ハ二分に當

さるふり

小學讀本第一終

六錢



明治九年
三月

出版人　小石川氷道町九番地　東京府平民　橋爪貫一

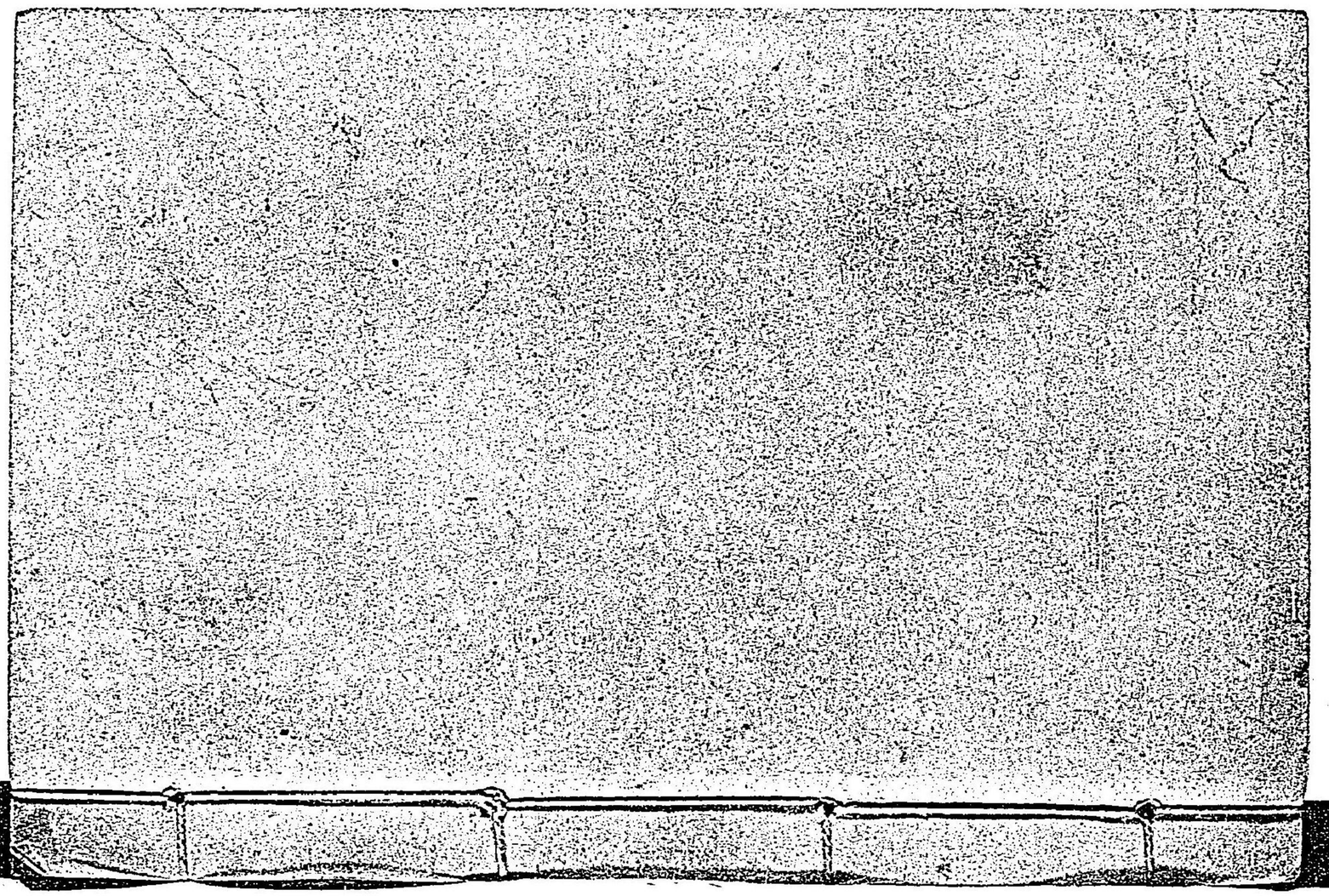
賣弘書林　日本橋通二丁目十九番地　東京府平民　稲田佐兵衛

東京發行書肆

小石川大門町　青山清吉
日本橋通二丁目　北畠茂兵衛
同　呉服町　坂上半七
三嶋　山中市兵衛
日本橋通二丁目　山城屋佐兵衛

諸國專賣書肆

下總佐原　朝野利兵衛
常州水戸　北澤安次郎
同土浦　伊沼彌助
横濱辨天通　吉川伊兵衛
肥前佐賀　河内壯助
下總佐倉　中井藤右衛門
同　吉田傳左衛門
野州枋木　菅谷甚平
甲府常磐町　内藤傳右衛門



銅版

# 小學讀本

特59
639

081654-000-9

特59-639

小学読本　巻1

田中　義廉／編

M9

DAC-6463